

## 学習と教育、植物栽培と人間育成

### 肥料焼け

根の周りの水溶液濃度は低い状態で、根の中もそれほど濃度が高い状態ではありません。そこへ、無機栄養分をたっぷり含んだ液肥などを与えてしまうと、周りの水溶液濃度が根の中の濃度よりも高くなってしまいます。その結果、根の中の水分は土壌中の水溶液濃度を下げようとして外部へ出ていってしまい、根が萎れて駄目になってしまうのです。これを園芸では「肥料焼け」と呼んでいます。

**教えすぎは、ちょうど、肥料焼けの状態、といえるのではないか。**

### 根腐れ

根には、水と酸素が必要。水をやりすぎると、酸欠状態となり、根が腐る。植物の根は、土が乾いていると、水を求めて遠くへ伸びていこうとする性質があります。鉢の中のような、限られた範囲で生育している場合は、細かい根をたくさん出したほうが、水を吸い上げる能力が上がるので、細かい根をたくさん出して、毛細管のように張り巡らせようとしません。逆に、常に土が湿った状態では、根は、遠くへ伸びていく必要を感じず、生長をやめてしまいます。植物は、常に水を欲しがっているような気がしますが、そこはぐっところらえて、多少厳しく、いじめ気味に育てたほうが、よく育つということなのです。

過保護をして水をやりすぎると、呼吸ができない、水浸しで根が腐ってしまう。

**これも、与えない教育の重要性を示唆しているように思えます。**

植物も生きようと努力して根を張り、養分や水を吸収しようとする。与えすぎるとその努力を怠るようになる。大いに育ててそして早く大輪の花を咲かせることを祈念します。

安里君 29歳 900点 海外赴任 人生で残すことのできるものは同じではないか。早逝しても、その人生は多くの人に語り継がれ、影響を及ぼしてゆくのではないか。